

OSP TOP NEWS

BUSINESS INFORMATION

社内情報
'11. vol. 210
<http://www.osp.co.jp>

印刷の基礎知識シリーズ 製版のルール

品質の良い印刷物をつくるために、経験と知識をもって現場で判断しなければなりません。今回は製版処理における「ノセ」や「ヌキ」といった基本ルールを紹介いたします。

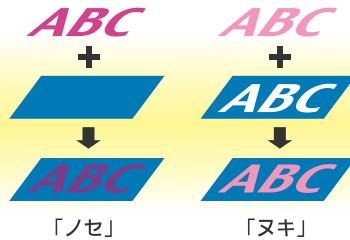


版ズレによって色と色の境目に隙間ができ、白地が露出してしまうケースがあります。白地がでないための対策で「ノセ」「ヌキ」「ニゲ処理」をほどこします。

「ノセ」と「ヌキ」とは

【ノセ】…ベタの色にK100%などの濃い色の文字や線をのせる処理です。オーバープリントともいいます。

【ヌキ】…ベタの色と上にのせる文字や柄の色が混ざり合わないようにする処理です。ベタの色の部分に色を重ねることで、色が混ざり合わないよう、色を乗せる部分を抜く処理です。



表示部分のような小さく、濃い色は「ノセ」。タイトル文字のような面積の大きいものや色が薄いものは「ヌキ」にする事が多い。

「ノセ」と「ヌキ」の見え方は?

「ノセ」の見え方

- 1 原材料等の小さな文字
- 2 細い線
- 3 細い書体や絵柄



「ヌキ」の見え方

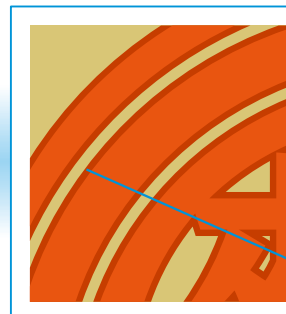
- ★ 濃いベタの色の上に明るい色を表現したいような場合
→色が混ざらず、意図したとおりの色を表現することが可能
- ★ 大きな面積の文字に使用



トラッピング処理(ニゲ)とは?

「トラッピング処理」=印刷機は精密とはいえ多少のズレが生じる場合があります。色と色が隣接する部分をわずかに重ねる必要があります。線1本分の逃げる部分を作る処理をいいます。本当にわずかな「ニゲ」が仕上がりを左右します。

- 製版オペレータが「トラッピング処理」をできるかを判断。
- 凸輪転印刷では毛抜きは困難なため、0.1mm程度の「トラッピング処理」をします。
- 同色系で「トラッピング処理」幅が多くとれる場合=0.3mm~0.5mmで対応。



0.1mm = 線1本